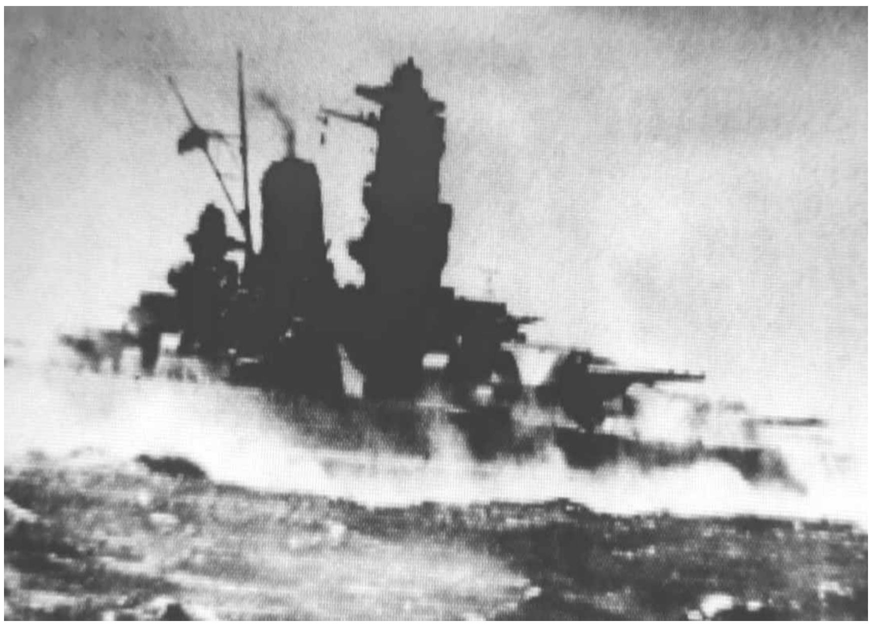
無料法律相談日の案内
８月19日（金）14時～16時
希望者は前日までに予約を

８月当初組合員数＝1，884人（−25人）

おれたち

発　行　所
東京土建一般労働組合荒川支部
東京都荒川区荒川６－３－１
TEL（3892）9131　FAX（3892）9381
発行者・津田宗久／編集長・増山國吉
http://www.doken-arakawa.org/

平和特集　大和よ、永遠に眠れ



沈みゆく戦艦大和

戦艦大和の最後を見た一兵士の証言

【竹達浩通信員＝南千住分会】去る7月10日の参議院議員選挙の結果、改憲派勢力は改憲発議が可能な員数になりました。

戦後77年「戦争を知らない」世代は国民総数の80%を超えました。

この事実は何を物語っているのか、一口で言えば戦争の罪悪に対する国民の意識の風化です。もしも憲法9条が改悪されたならば、戦争は私達の家の戸口から入ってきて私達のすべてを奪っていくでしょう。

そのような危機感をもって7月14日、西新宿にある総務省委託の平和記念展示資料館で取材しました。

展示資料館は日中戦争や太平洋戦争体験者の証言や戦後シベリアに強制抑留された抑留者の証言、また、中国で逃避行を続けて帰国にたどり着いた人々の証言等が掲示されていました。

その中にひときわ目立った掲示がありました。

それは語り部証言映像「駆逐艦雪風に乗った海軍特別少年兵」西崎信夫（享年94歳）さんのビデオ証言映像の案内です。

貧しいがゆえに

西崎さんは三重県で1927（昭和2）年に9人兄弟の末っ子として生まれました。男児は3人で2人の兄はすでに出征しており、長男は陸軍、次男は海軍の潜水学校に行き、家は貧しく母の姿を見て進学もできません。

西崎さんは家を貧しさから救うためには、自分も軍人になる事が必要だと考えるようになりました。

反対する母を強引に説得し試験を受けて合格し、時は1941（昭和16）年10月太平洋戦争勃発2ケ月前の14歳の時でした。

15歳で海軍特別少年兵に

翌年9月1日に広島県の大竹海兵団に入団、出征の朝、母は「死んではならない、生きて帰ってこそ名誉ある軍人さんです」と言われ、この母の言葉が私の生に対する執着となりました。

海軍特別少年兵というのは、14歳から16歳未満の少年を1年間海兵団で教育、鍛錬して、将来の中堅幹部を養成する制度で西崎さん達が第一期生です。

海軍特別少年兵時代の
西崎信夫さん

スパルタ教育で朝5時起床、点呼を受けてその後は掃除、朝食後、午前中は普通教科、英語、数学、国語、化学、物理、歴史、午後は軍事教練で夜は2時間の温習（おさらい）です。

連日連夜そのような生活の連続で、一番厳しいことは全体責任を問われることです。1人の過失で240名全体が責任をとらされ制裁を受け、隊員の中から精神異常を来す者、また自殺をする人も現れました。

駆逐艦「雪風」に乗艦命令　私の運命は決まった

海兵団を卒業して、希望する横須賀の海軍水雷学校に入学しましたが、戦況が緊迫して学業は半年ぐらいで繰り上げ卒業になりました。

1943（昭和18）年、西崎さんに駆逐艦「雪風」への乗艦命令が下りました。

数日後に寺内正道艦長が乗艦して朝の集会で全乗組員に、「俺が雪風に乗った以上この船は絶対沈まないから、お前らも安心して俺の言うことをよく聞いてくれ」と訓示がありました。海軍の中でも寺内艦長の操艦術は優秀でした。

「大和」護衛　沖縄への特攻命令

西崎さんは、沖縄特攻命令が出る前はマリアナ沖海戦やレイテ沖海戦などいろいろなところに出撃しており、戦艦や空母の護衛をしてきました。

その中でも一番死の恐怖を感じたのはこの沖縄水上特攻作戦です。

1945（昭和20）年4月5日に連合艦隊司令部から出撃命令が発令されました。出撃艦船は戦艦大和に軽巡洋艦の矢矧（やはぎ）駆逐艦雪風など8艘、合計10艘の艦隊でした。燃料は片道分、護衛の戦闘機は付きません。弾を打ち尽くした後は敵艦に接近して潜水艦を沈める爆雷を打ち込んで、艦もろとも玉砕する作戦でした。

作戦は空振り　多勢に無勢

午後3時出撃との艦内放送があり、7時ごろ豊後水道を抜けると敵潜水艦に遭遇、艦隊は大和を中心に円陣を作り、雪風は大和の左舷を魚雷対策でジグザグ進行をして事なきを得ました。

翌7日午前、鹿児島県西方沖で敵偵察機に発見され、午後0時半ごろ敵機襲来し、激しい波状攻撃で西崎さんも足を負傷し、対空戦では大和の主砲46センチ砲は全く役に立ちませんでした。

連合国軍は爆弾攻撃では大和は沈まないと判断したのか、後半は魚雷攻撃に変更しました。しかも魚雷攻撃は左舷に集中し大和は30度ぐらい傾き甲板の半分が水没しました。水上にある甲板の上部には泳げない兵隊が群がっており、雪風も救助に行けません。

それは大和が沈むとき大きな渦ができて雪風も危険になるためです。しばらくして大和は横転し、船腹を上にして誘爆を起こし沈んでいきました。

大和には乗組員約3300人が乗り込んでいましたが、生き残った人は276人、その中の105人は「雪風」が救助しました。

取材後記

今回の取材を終えて明治以降終戦まで戦争の77年、終戦から今日まで平和の77年、この平和は憲法9条の戦争放棄条項の力であることを痛切に感じました。

分会活動経験交流集会

3年越しに開催

7月9日・10日、本部主催の分会活動経験交流集会が開催されました。

全体の参加者数は218人、荒川支部からは増山組織部長、小熊分会長、田村後継者対策部副部長、髙岡後継者対策部員、菊池書記の5人が参加しました。

1日目の前半は全体会が開催され、各支部からの組合活動や拡大行動の経験報告があり、その中でドローン実演等も行われました。

午後からの分散会では70人程度のグループに分かれ、組合活動や仕事の悩み、問題について意見交流がされました。

2日目午前中に行われた分散会では10人程度のグループに分かれ、書記や組合員、若手からベテランが入り交じり、活発な意見交換が行われました。

後半は、主婦の会と青年部からの経験報告が行われ、最後は支部代表の決意表明が行われた後、本部の組織部長、後継者対策部長の決意表明が行われました。

左から髙岡さん、小熊さん、増山さん、田村さん

増山國吉さん
（西尾久分会）

【増山國吉通信員＝西尾久分会】参加しました。

1日目は動画で振り返る過去の分会経験活動交流集会の様子のVTR紹介がされました。

その後、各支部よりビデオを用いた活動報告がありました。豊島支部、小金井国分寺支部、目黒支部、杉並支部、三鷹武蔵野支部、北支部から報告があり、その中でも印象に残ったのは豊島支部の今回初参加の原田陽弘さんのお話でした。

豊島支部では原田さん自ら講師を立候補し、若手のスキルアップに力を入れています。

また、三鷹武蔵野支部ではドローンを使った先進的な取り組みをしており、本部からも支援をしてあげてほしいと感じました。

午後からは第2分科会に荒川支部から2人が参加しました。板橋支部の活動報告が行われた後、組織活動の強化について、コロナ禍分会機関会議の在り方、仲間の要求に応える訪問行動、今できること、基礎知識のさらなる強化等のテーマでディスカッションが行われました。

その後、三鷹武蔵野支部の活動報告が行われた後、後継者対策の運動として後継者世代の交流やつながり、分会や群の活動家の発掘、育成、事業所従事者の組織化、建設業の情勢や要求にそった学習についての話し合いが行われました。

2日目の午前中は分散会が行われました。

まず自己紹介から9名でフリートークで各支部の悩みごとや取り組みを話しました。

今回の分会活動経験交流集会では、荒川支部も含め各支部の活動報告が様々な工夫が凝らされた動画で紹介され、とても目を引く作りとなっており、非常に参考になりました。

小熊賢一さん
（東尾久１分会）

【小熊賢一分会長＝東尾1分会】分会経験活動交流集会へは、今回初めて参加しました。

1日目の全体会では、各支部の経験活動報告が行われ、内容は共感する点が多かったですが、現実的には難しい点も多く、できる範囲で、今後の活動に生かしていけたらと思います。

2日目の分散会では、各支部での経験報告を受けとても良い刺激を受けました。

その中でも、後継者の問題は各支部共通の問題となっていて、今後解決していかなければならない一番の問題だと感じました。

今回の交流集会は、組合活動に理解がある方々が集まり非常に勉強になるもので、来年からはこうけい世代の方々に大勢参加してもらい、組合を大いに盛り上げていってほしいと思います。

田村高広さん
（東尾久１分会）

【田村高広後継者対策副部長＝東尾久1分会】今回は分会長の小熊さんに誘われて参加しました。

分科会では荒川支部の活動経験報告をさせていただきました。緊張はしましたがとても良い経験をさせていただきました。

分散会では各支部の組合員と交流する中で、どの支部も解決したい問題は共通していて、同じ悩みを抱えていると感じました。

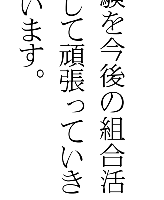
組合活動や拡大行動は誰か一人が頑張ればよいというものではなくて、みんなの協力があってこそ前進できるのかなと改めて実感しました。

この経験を今後の組合活動に生かして頑張っていきたいと思います。

髙岡　勉さん
（東尾久1分会）

【髙岡勉後継者対策部員＝東尾久1分会】分会長に誘われて初めて参加しました。分会活動経験交流集会への参加は初めてでとても新鮮でした。分散会では少人数の話し合いができ、他の支部の組合員の方の色々な意見を聞けて、また自分の意見を伝えることもできて良い経験になりました。

組合へは元々は父が入っていたので、その流れで入りました。今回の分会活動経験交流集会での経験を活かして、つながりを大切にしながら、荒川支部の為に役立つ行動をしていきたいと思います。



菊池賢太朗
（書記）

【菊池賢太朗＝書記】分会活動経験交流集会へは今年初めて参加させていただきました。

1日目の全体会では、各支部の経験報告が行われ、各支部の活動がパロディを交えた目を引くような内容の動画で紹介されていました。

特に三鷹武蔵野支部の分会独自で取り組んでいるドローンを使った事業は非常に先進的で、最近増えている屋根修理の悪徳業者対策にも利用できるような取り組みだと感じました。

後半の分科会では、田村後継者対策副部長と若手・新人グループに参加しました。

分科会に参加した事がない方がほとんどで、分科会の進行の仕方や自己紹介のやり方などについてのレクチャーがあった後、仕事や組合活動の悩みについて意見交換がされました。

2日目の午前中は分散会が行われ、書記・組合員を問わず率直な組合活動に対する意見交換や経験報告が行われました。

各支部の意見として多かったのは、「求人を出しても人が集まらず特に若い人は集まらない、就職してもすぐにやめてしまうので後継者なんて見つからない」ということ、「コロナ禍による仕事へのダメージと組合運動の脆弱化に歯止めがかからない」という2点については共通の悩みとして多くの声が上がっていました。

後半は全体会に戻り、青年部と主婦の会の経験報告が行われました。先月まで青年部担当だったこともあり、他の支部の青年部の取り組みには非常に興味を持ち、荒川支部でも活かせそうな点もいくつかあり、荒川支部青年部の活性化に繋げていきたいと感じました。

まだ書記2年目の私にとっては、参考になる点が非常に多く、良い刺激を受けました。

この経験を今後の組合活動とこれから始まる秋の拡大行動に活かしていけたらと思います。

支部の経験報告をする田村後継者対策副部長

アスベスト建材メーカー訴訟
国以上に重い責任

【増山國吉通信員＝西尾久分会】6月7日、アスベスト建材メーカー訴訟行動が東京地裁前で行われました。

1陣〜3陣の原告190人が札幌、仙台、さいたま、東京、横浜、京都、大阪、岡山、高松、福岡の全国10地裁でアスベスト建材メーカーに対して一斉提訴しました。

東京地裁前に千葉原告団、東京建設ユニオン、東京土建荒川支部からは2名が参加しました。

集会では中村隆幸首都圏同訴訟統一本部長が「建材メーカーはスベストの危険性を認識しながら利益追求を優先した結果多くのアスベスト被害者を生んだ。その責任は国以上に重いと強く訴え、「建設アスベスト被害の全面解決に向け共に奮闘しよう」と呼び掛けました。

アスベスト建材メーカーに訴える
原告団の皆さん

集会後、東京裁に入廷し訴状を提出しました。その後、星稜会館で報告支援集会が行われました。建設アスベスト訴訟は、原告の命を懸けた裁判闘争の結果、昨年5月17日の最高裁判決を受け、国との基本合意、建設アスベスト給付金の成立、施行が実現されました。

しかし、建材メーカーらは、最高裁判決･決定によって責任が確定した11社も含めてすべての建材メーカーが、被害者の早期救済に踏み出そうとしていません。全国一斉の建材メーカー訴訟は、全国被害者の強い怒りを訴えました。

真摯な謝罪、一日も早い解決、そしてすべてのアスベスト被害者を全面的に救済する制度への参加が求められています。

音の栞 No.129

映画「わが青春つきるとも」の主人公、伊藤千代子（以下、千代子とする）の没後93周年の今日、再び映像として千代子の生前の時代背景を再現し、現在の日本の情勢と対比することで、現在進行している日本の外政・内政の公平な評価ができる。

千代子が生まれる少し前の時代から日本の戦略面を見ると、日清戦争・日露戦争・第一次世界大戦で戦勝国となり、天皇制大日本帝国の好戦教育で国民は洗脳され、国民は戦争に対する抗体を失いその代償は破壊と殺略と悲劇の増幅であった。

千代子はそのような環境で生まれ育ったが、在学中にリベラルな教師達に恵まれその教育で人間としてまた、女性としての自己に覚醒していった。

特に大学2年の時に、ドイツのアウグスト・ベーベルの「婦人論」の二重の抑圧に苦しむ女性の地位、恋愛、結婚、子供の教育や働く女性についての歴史的論考との出会いは、千代子の女性としての人権の自覚を促した。

時は1922年日本共産党が創立、翌年23年の関東大震災直後に、政府は朝鮮人や社会主義者の暴動の危険ありと厳戒令を発し、警察・自警団による朝鮮人・中国人・社会主義者の殺害情報を知り、千代子は非情な天皇制絶対権威主義に義憤を抑えることができなかった。

つづく

書記紹介

よろしくお願いします。

7月1日より荒川支部で勤務しています書記の橋本良太です。皆さんに早く覚えていただけるよう、この場をお借りして自己紹介をさせていただきます。

担当の専門部は厚生文化部と青年部です。分会は荒川分会を担当させていただきます。

年齢は今年で32歳になります。出身は福井県福井市です。高校までを福井県で過ごした後に、大学は岐阜県に、その後、就職するタイミングで東京に来ました。東京での生活も気づけば10年近くになりました。大学卒業後はパチンコ台の営業をしていました。

学生時代は野球をしていたこともあり、野球はもちろんのことスポーツ全般観戦するのが好きです。休日はスポーツを観たり、漫画を読んだり銭湯に行ったりして過ごしています。

組合での仕事は今まで全く関わりの無かった仕事内容のため、慣れるのに時間が掛かり皆さんにご迷惑をお掛けすることもあるかもしれませんが、一日でも早く皆さんのお役に立てる書記になれるよう頑張っていきたいと思います。これから宜しくお願いします。

今月の1枚

【吉田敬子通信員＝東尾久2分会】ひらつか七夕が3年ぶりに7月8日から10日まで開催されるのを知り8日に行って来ました。

平塚の七夕まつりの様子

今年で第70回となる湘南ひらつか七夕まつりですが、平塚は、昭和20年の大空襲により中心市街地の7割が焼け野原化していました。

戦後、昭和25年に復興まつりが開催され、その延長として昭和26年に第1回の七夕まつりが開催されました。復興と繁栄の願いが込められた歴史のあるお祭りです。

豪華絢爛な七夕飾りで、商店街や市民が趣向を凝らした飾りで、伝統的な歌舞伎や浮世絵からキャラクターもの、スポーツ選手や芸能人など、さまざまな流行を取り入れたきらびやかな飾りでした。七夕飾りをじっくり見上げて来ました。

私の孫自慢 Vol.1

【並木義男通信員＝荒川分会】石田政利さんは二世帯住宅で次女の家族、ご主人と三人の子供と住んでいます。

お孫さんのお父さんは国体でスキー滑降選手として出場しました。下のお孫（中田絢音）さんは五・六歳の頃、お父さんの故郷である青森県で一緒にスキー滑降コースを滑っていたと言います。

石田政利さんとお孫さんの絢音さん

四峡小学校では、足が速くリレーではアンカーをしていました。

足の速さを生かしてサッカーを始めました。

中学校はサッカーが盛んな名門校の十文字中学校に進学しました。

現在は十文字高校1年生になり、レギュラーで頑張っています。

石田さんは「将来なでしこジャパンでプレーを見る事が夢かな」と楽しそうに語ってくれました。

モノつくりと匠の町 其の128 あらかわ

荒川区で香炉や装身具などを制作する彫金のお仕事をされている田村尚子さんを取材しました。彫金は鏨(たがね)と呼ばれる道具で金、銀、銅等に文様を彫ったり他の金属をはめたりする技術です。

【並木義男通信員＝荒川分会】田村さんは高岡短期大学で彫金を学ぶかたわら、高岡銅器の職人である北光生氏からも教えを受けます。その後、上京して東京藝術大学大学院に進学して、彫金を専攻。その後、江戸の金工柳川派の江戸彫金・人間国宝桂盛仁氏（重要無形文化財保持者）に師事し、打ち出しの技術を修得した。

桂盛仁先生元、春日大社国宝の鳳凰の修理を手掛けました 。桂盛仁氏は柳川派十一代で田村尚子さんは十二代目を継ぎます。

春日大社は摂社若宮神社に伝わる国宝の飾りを復元新調し、「金鶴洲浜台」の彫金を担った桂盛仁さんに依頼され田村尚子さんは師匠桂盛仁氏の片腕として奈良市に通い修復作業に当たりました。

田村尚子さんは令和2年に荒川区登録無形文化財保持者に認定されます。

途絶えた職人技を復活、継承にも研究をしています。江戸時代の彫金で造られた煙管の修理復元依頼に取り組んでいます。

海外からは刀の鍔の製作や修理の仕事を受けています。個人情報で名前は言えませんがアメリカの有名な人からも注文が入っていると話しています。

工房にはイカをかたどった作品、帯留めは引き込まれます。製作中の作品は松ヤニの固まりの上に固定して作業をしていました。

田村さんは、荒川の匠育成事業などにより、継承者の育成に尽力していて弟子の佐々木俊樹さんを後継者として育てています。

笑顔で応じてくれる田村尚子さん

イカをかたどった作品

熱中症予防ポスターの配布

猛暑日が年々増え、熱中症搬送者が多くなってきていますが、対策は十分ですか。

支部事務所で上記のポスターの作成・配布を行っています。事業所名を記載することもできますので、ご希望の方は支部事務所までお問い合わせください。

予算要求中央決起集会

3年ぶりの開催

6月29日、全建総連主催の「賃金・単価引き上げ、予算要求中央決起集会」が3年ぶりに開催されました。

主催者代表の中西孝司全建総連委員長は「長引くコロナによる経済や生活への影響、未だ続いているウクライナ・ロシア情勢、物価の高騰やウッドショックによる資材不足等で、仲間の仕事や暮らしへ大きな影響が出ている。物価高騰対策の政府の補正予算は成立したものの、まだまだ建設産業の先行きは不透明。物価上昇を上回る賃金引上げ等の処遇改善が必要だ」と訴え、建設国保をはじめ、2023年度の概算要求に必要な額を確保することへの理解を求めました。

また、「その為にも全建総連62万人の仲間が団結し、予算要求実現のためにともに頑張っていきたい」と強く訴えました。

その後交渉団を代表して斎藤副委員長が決意表明を行い、各省庁へ交渉団が出発しました。

集会の様子

賃金引上げを訴える参加者

当日来賓として出席した国会議員からは「建設国保の育成強化などの要求はしっかり受け止める」と発言があり、中西委員長から議員へ要請書が手渡しされました。

猛暑の中大勢の参加者が集まり、全体の参加者は1796人、東京土建からは721人、荒川支部からは12人が参加しました。

仲間の横顔 68

小寺柊平さん（西尾久分会）

組合員の皆さま、こんにちは。

6月1日付で株式会社東電機工業所に入社しました、小寺柊平です。よろしくお願いいたします。

交通信号機工事については初めてで先輩方から教わりながら施工方法を学んでいきたいと思います。

最後に、梅雨も明け大変暑い日々が続いておりますが、皆さまも熱中症には十分気を付けて仕事をしてください

笑顔で仕事をする小寺さん

支部閉所のお知らせ

下記日程で支部事務所を閉鎖致しますのでご注意ください。

8月15日（月）
8月16日（火）
8月22日（月）午後